



芸北茅プロジェクト

— 芸北の茅を使ってふる里を守ろう！ —

芸北茅プロジェクト実行委員会

芸北茅プロジェクト（カヤプロ）とは

芸北の原風景

かつて芸北の民家は、茅（ススキ）で屋根が葺かれていたそうです。一軒の屋根を葺くのに大量の茅が使われたため、各集落には必ず「茅畑（かやばた）」と呼ばれるススキ原がありました。時代が移り、トタンや瓦が普及すると、茅は使われなくなり、茅葺きの建物が並ぶ風景は姿を変えていきました。そして今、茅葺きの技術を持った人はほとんど居なくなり、茅葺き屋根を葺ける人や技術が芸北から消えつつあります。

事業の背景：茅葺き屋根の減少

茅葺き屋根の減少は、野生の生きものにも変化をもたらしました。ススキが使われなくなったことでススキ原は森になりました。すると、キキョウ、カワラナデシコ、オミナエシなどの草原の生きものたちが姿を消し、森はツキノワグマやイノシシなど獣の潜み場になりました。茅葺きの建物は昔ながらの風景を作っていただけでなく、ススキ原の景観や生きものを守り、獣が里に出てくるのを防いでいたのです。

芸北茅プロジェクトの目的

私たちが進める芸北茅プロジェクトは、芸北に生えている茅を活用することで、伝統的な建築物や技術を伝えるとともに、ススキ原の生物を守り、地域通貨の流通を通じて地域を活性化させる取り組みです。芸北中学校と PTA が中心となって取り組むことで、子どもたちが地域の資源や自然、経済について学ぶ機会を作っています。

取り組みに参加してください

カヤプロの推進には、茅を出荷して下さる「刈り人さん」の協力が欠かせません。ぜひ、地域の茅を刈り取って茅金市場に出荷してください。



茅金市場での受入れの様子



茅金市場での受入れの様子



茅金市場での受入れの様子

「藝州茅」の規格

カヤプロでは、長さ 180cm 以上の真っ直ぐなススキを、直径 20cm～25cm に束ねたものを「藝州茅」として市場に受け入れています。出荷の際はご確認ください。

check!

刈取りのポイント

check!

束ね方のポイント

check!

上側が広がっている場合はもう1箇所結ぶ

check!

まっすぐな茅を選ぶ

check!

刈取りの時期は、茶色く枯れてから

check!

結び目は同じ側、2箇所ではばる

check!

直径は 20 c m

check!

できるだけ根元に近いところを刈る

長さは 180 c m 以上

check!

刈取りや束ねは晴れた昼間に！

check!

check!

弛まないようにしっかり絞める

check!

他の草は適度に取り除く

check!

check!

素麺のように平行に束ねる

check!

根本から 30～40cm の高さで結ぶ

check!

トントンとして切り口を揃える

check!

事業の全体像

① 茅の受け入れと、せどやま券の発行

1年に一度「茅金市場」を開いて、地域みなさんから茅を受け入れます。
受け入れの際には検品して、出荷量に応じてせどやま券と交換します。
せどやま券は、地域の商店で利用できます。

② 茅の保管と販売

受け入れた茅は、保管場所で換気をしながら保管して販売します。
茅は個人宅から文化財建築まで様々なところで使われます。

③ カヤプロを通じた学び

茅金市場での茅受入れを担うのは、芸北中学校の生徒です。
市場の広報活動や、入荷時の検品、地域通貨の発券など、地域資源の流通に関わることで、地域資源の活用や生物多様性の保全方法について学びます。

多面的機能の発揮



草原生態系の保全

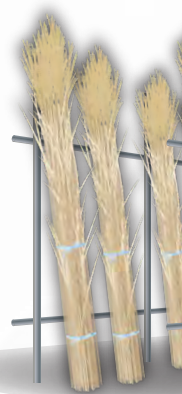
- 希少種保護
- 獣害の抑止
- 景観の保全



発券



出荷



過疎地の再生

商品



カヤプロから生まれる「かやぶき」

か 貨幣経済

茅を資源として流通させ、地域の経済を活性化します。

や 野生生物

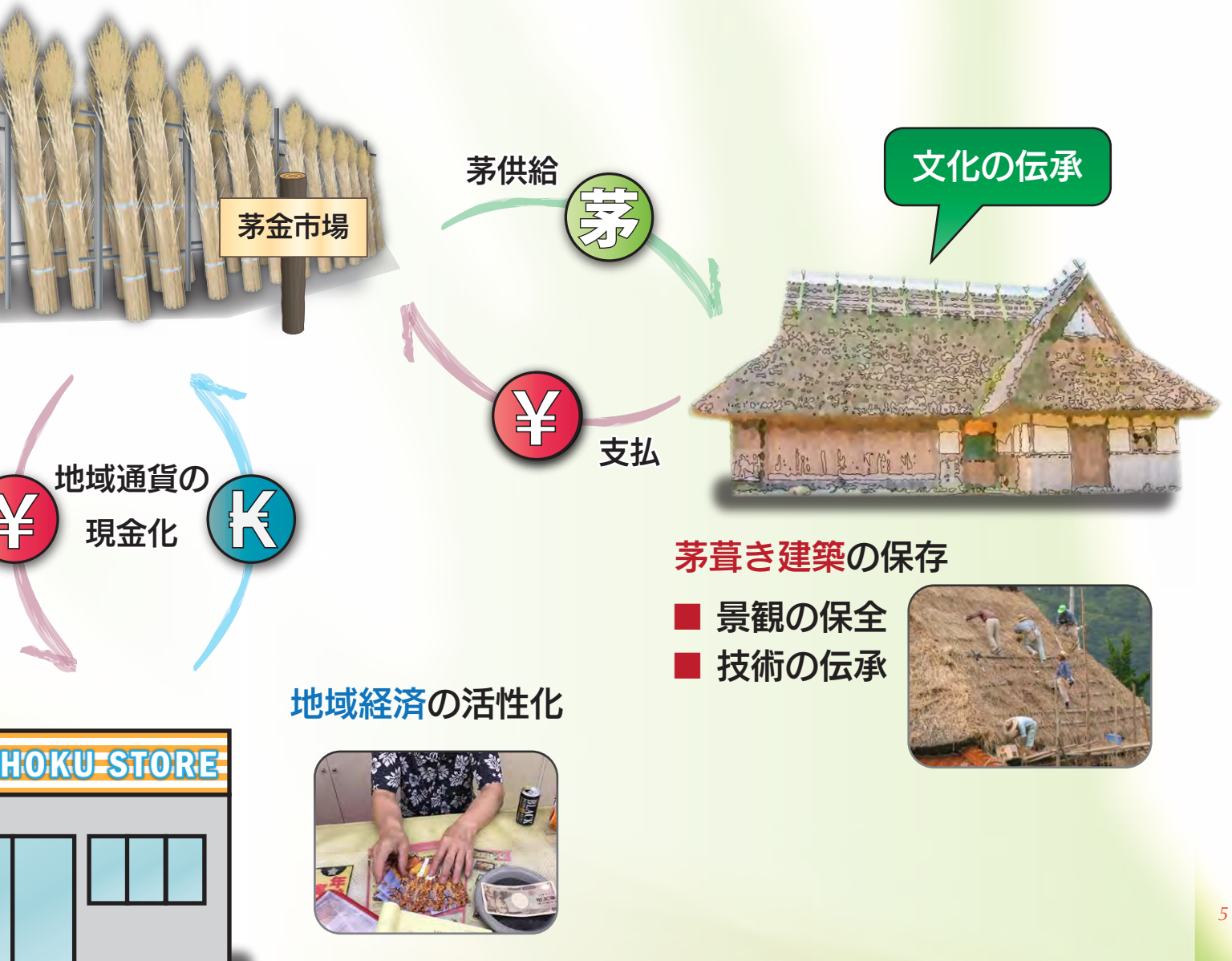
茅を刈ることが草原の動植物を育み、獣と集落のバッファゾーンを形成します。

ぶ 文化

茅葺き屋根を葺く技術を伝承し、ふる里の景観や文化財を保存します。

き 教育

草原の見学や、茅刈り・茅金市場などの活動を通じた地域学習を進めます。



地域通貨「せどやま券」



名 称： せどやま券（せどやまけん）

単 位： 石（こく）

有効期限： 6 ヶ月（券に「使用期限」を押印してから渡します。）

利用のルール

- ① 地域の加盟店で「せどやま券」1枚で、1000円以下の商品と交換できます。
- ② 利用する際には、裏面に利用者の名前と利用店舗を記入します。
- ③ 1000円単位で切り上げになります。差額は環境保全活動への寄付となります。
- ④ 日本国通貨と混合での利用ができます。
- ⑤ 店主が地域通貨を利用したり、釣り銭に使うなど、二次利用ができます。
- ⑥ 二次利用も含め、最大5回まで流通できます。



草原の恵みがせどやま券に



農機具・食品・物品などを購入できます

メッセージ

芸北地域のみなさまへ

① 地域の資源を使い、地域で買い物をしてください。

灯油・電気・ガス・ガソリンの使用は、地域からの経済流出であり、地球温暖化を進めます。地域の資源を使い、地域で買い物することが「豊かで美しいふるさと」を子ども達に残します。

② せどやまや農地など、土地を大事にしてください。

エネルギーも食料も、先祖が残してくれた土地が提供してくれます。
これからの社会では、芸北が持つ「本当の豊かさ」がますます大事になっています。

③ せどやまや草原とのつながりを見付けてください。

近所の散策、茅刈り、山焼きへの参加、しいたけ栽培、ピザ窯、薪ストーブなど、少しずつでも草原やせどやまと「関わる」ことから始めてみてください。

④ 一緒に始めませんか？

「茅金市場」に茅を出荷してください。手鎌と軽トラがあれば、誰でも始められます。
近所で誘い合わせて、みなさんで作業されることをお勧めします。

企業のみなさまへ

茅の購入や、様々な形での寄付、カヤプロの広報などで、事業を応援してください。カヤプロは、広島市へと注ぐ太田川源流域の自然を保護する活動ですが、それだけに留まらず、私たちにとっては地域が生き残っていくための活動です。環境保全、地域づくり、農村交流などに関心があり、芸北を愛してくださる企業様の協賛をお待ちしています。

行政や他地域のみなさまへ

カヤプロを、あなたの地域でも始めてみませんか？私たちは、これまでの経験や資料などを提供できます。また、茅金市場や茅場の視察も受け入れています。茅を保管するための場所と、数名の「意欲を持った人」が揃えば、最初の投資は大きくありません。

また、茅を使う意味で、茅葺き屋根の葺き替えを推進することで、地域の資源を活かし、秋にススキが穂を揺らす「美しい草原景観」が各地に広がることを、私たちは願っています。

受賞履歴

さとやま未来大賞 2017 in ひろしま『未来のたね賞』（広島県）

中山間地域にあるものを活かして、新しい価値の創造につなげている好事例を「さとやま未来大賞」として顕彰し、その活躍を応援するとともに、プロセスやノウハウを共有することによって、取組のさらなる普及をめざす。

芸北茅プロジェクト実行委員会

北広島町立芸北中学校（価値化部門、事務局）

芸北中学校 PTA（事業化部門）

NPO 法人 西中国山地自然史研究会（事業化部門、事務局）

北広島町教育委員会（事業化部門）

北広島町立 高原の自然館（価値化部門）

本事業は「地球環境基金」の助成金を活用して実施しています。



お問い合わせ先

藝州茅を買いたい

西中国山地自然史研究会：080-6334-8601

茅金市場に茅を出したい

北広島町立芸北中学校：0826-35-0151

視察をしたい，その他全般

西中国山地自然史研究会：080-6334-8601

もっと情報を知りたい

ホームページ：http://np0.shizenkan.info/?page_id=9987



2025 年 7 月 印刷

編集・発行 芸北茅プロジェクト実行委員会

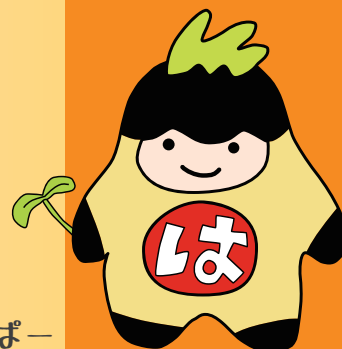
事務局 NPO 法人西中国山地自然史研究会

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 10119-1

☎ 080-6334-8601

✉ staff@shizenkan.info

🌐 <http://np0.shizenkan.info/>



はらっぱー